# 知の揺りかご、メディアの交差

## 大崎市図書館等複合施設の基本設計が完成しました

市では、大崎市図書館等複合施設基本構想に基づいて、設計業務を進めてきました。このたび、基本設計がまとまりましたので、外観のイメージや館内の配置イメージについて紹介します。

㊐ 図書館等建設推進室　☎ 21-0633

外観イメージ

新しい図書館が市民の生涯学習に果たすべき役割や機能、サービスとは何か。これらを実現させるための規模や形、設備はどのようなものか。

教育委員会がまとめた大崎市図書館等複合施設基本構想を基に、パブリックコメントや説明会を通じて寄せられた意見や提言を取り入れ、新図書館の基本設計を完成させました。

**基本コンセプトは「知の揺りかご、メディアの交差」**

子どもからお年寄りまで、ゆったりと読書の時間を楽しみ、親子が絵本に親しむことができる落ち着きと安心感のある開放的な空間「知の揺りかご」でありたいと考えています。

知的な探究や欲求に応え、市民一人一人が自ら知を育み、人生の潤いや幸福の実感につながる図書館を目指します。

また、知識と情報の拠点にふさわしい充実した機能とサービスを提供すると共に、知識、情報、人など、さまざまな媒体が交差し合う、「メディアの交差」により、新たな交流と大崎市らしい文化が創り出されていく図書館を目指します。

**三つの基本方針**

### 知識と情報の拠点にふさわしい図書館

充実した資料・情報の提供が新図書館の最大の使命です。多種多様な資料、幅広い情報の継続的な収集・保存・集積を図ると共に、市固有の資料や情報を重点的に収集・保存していきます。

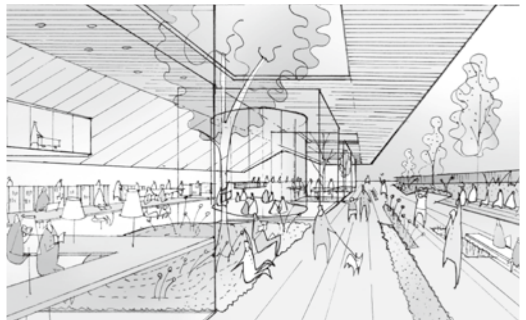
### 市民に役立ち、ともに歩む図書館

利用者を主役にした奉仕活動を行っていきます。市民の生涯学習を支え、生活や地域の課題を解決するために必要な資料・情報を提供します。

今後も、皆さんの声を図書館サービスに反映しながら、お互いが支え合う協働の関係を築いていきます。

### まちづくりを支える図書館

誰もが気軽に立ち寄れ、利用しやすく、人と自然に優しい施設であり、出会いや触れ合いから交流が生まれ、人材を育んでいくまちづくりの拠点を目指します。市内の図書館サービス提供の中枢として、市内外の図書館などとネットワークを構築します。



テラスに面した通りのイメージ



**2階の構成**

■本や資料の収蔵を行う閉架書庫があります。
■学習室・研修室・会議室など複合施設を集約します。
■交流の場となるようラウンジは広くしました。

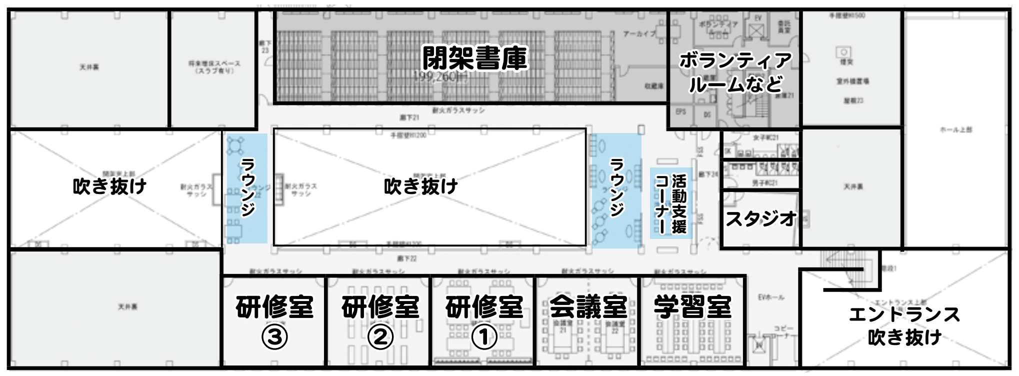
**1階の構成**

■本を読んだり、借りたりする空間があります。
■エントランスホールにカフェや休憩できるラウンジを設けます。
■ 200人収容のホールを設け、音楽活動や講演会などが行えます。
■子どもたちのための読み聞かせや、ねころびコーナーを設けます。

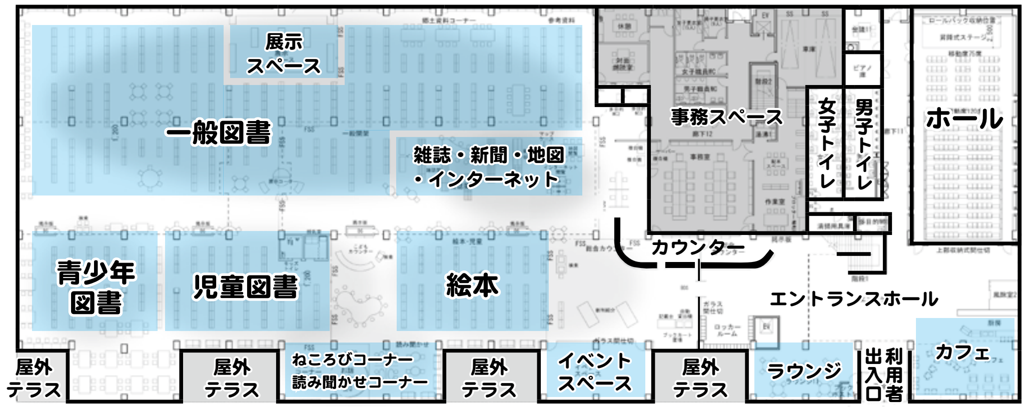
**全体の構成**

■すべての利用者が使いやすいよう、2階までの低層階としました。
■圧迫感を感じさせない居心地のよい空間にします。
■ 2階に回廊を設け、1階の図書館と2階の研修室を視覚的に結び、互いの学習意欲を高める工夫をしました。
■内装や1階のテラス、家具には、地元産木材を活用し、木の温かさと優しさが感じられるようにします。

**【２階の配置イメージ】**




**【１階 の配置イメージ】**




**建設計画概要**

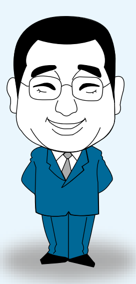
■敷地面積・・旧合同庁舎跡地 8,120 ㎡・旧税務署跡地 1,918 ㎡
■建築面積・・施設 4,076 ㎡・立体駐車場 1,584 ㎡
■延べ床面積・施設 6,161 ㎡・立体駐車場 4,752 ㎡
■構造・・・・鉄筋コンクリート造＋鉄骨造
■駐車場・・・敷地 35 台・立体駐車場(地上3階)161 台
■駐輪場・・・自転車 130 台・バイク 20 台

**今後のスケジュール**

| | | |
|---|---|---|
| 平成 27 年 | 3 月 | 実施設計完了 |
| | 7 月 | 建設工事着手 |
| 平成 28 年 | 12 月 | 建設工事完了 |
| 平成 29 年 | 1 月 | 移転作業開始 |
| | 3 月 | 新図書館開館 |

### 市長コラム 天・地・人

**こどもの日に想う**



**白銀も 黄金も 玉も**
**何せむに 勝される宝**
**子にしかめやも**

（白銀も黄金も宝玉も、そんなものは何になろうか、子どもには及ぶべくもない）

この歌は、奈良時代の万葉歌人山上憶良が詠んだ歌です。子どもたちは、「子宝」と言われるように、親にとってはまさに宝物であり、「地域の宝」「社会の宝」でもあります。

五月五日は「こどもの日」です。子どもたちの健やかな成長を祝い、幸福を願う国民の祝日です。今回は、大崎の子どもたちの、きらりと輝く活動の一端をご紹介します。

市主催の新年祝賀会の席で、村井宮城県知事や横綱白鵬関が臨席する中、「おおさき子どもサミット」代表の子どもたちが、新春の夢を熱く語り、万雷の拍手を鳴り響かせました。

「おおさき生きものクラブ」に参加している子どもたちは、東京大学で開催された「世界一田めになる学校」で活動体験を発表し、全国の子どもたちと復興交流を深めてきました。

市内中学校の「立志式」では、震災から学び、人や社会のために役立つ仕事への思いを堂々と発表し、参観者の心に感動を与えてくれました。

「まち歩き」や「ワークショップ」を実践した市内の中・高校生たちからは、「絆でつなぐまちづくりシンポジウム」の席で、復興に向けたまちづくりへ、若い視点から貴重な提言をいただきました。

このように、子どもたちの生き生きとした活動は、大崎市の宝であり、未来を創るパワーでもあります。

笑顔あふれる子どもたちを、私たちみんなで育んでいきましょう！

大崎市長 伊藤康志